



岡山市脱炭素ロードマップ

～みんなで進もう！ゼロカーボンシティ岡山～



令和5年6月

目次

1. 策定の背景	1ページ
(1) 気候変動対策をめぐる国内外の動向	
(2) 地球温暖化対策とゼロカーボンシティ	
2. ロードマップの目的と位置づけ	4ページ
(1) ロードマップの目的と位置づけ	
3. 現状と課題	6ページ
(1) 岡山市の温室効果ガスの排出状況	
(2) 市民の状況	
(3) 事業者の状況	
(4) エネルギー消費量と再エネポテンシャル	
(5) エネルギー収支	
(6) 交通関係の現状	
(7) 課題の整理	
4. ゼロカーボンシティの実現に向けて	14ページ
(1) 将来ビジョン	
(2) 基本的な考え方	
(3) ゼロカーボンシティ実現に向けた取組の考え方	
5. ロードマップ	18ページ
(1) 二酸化炭素排出削減の目安とイメージ	
(2) 脱炭素シナリオと再生可能エネルギー導入目標	
(3) ゼロカーボンシティ実現に向けた取組	
(4) 各項目における取組	
(5) 岡山市地球温暖化対策実行計画との体系	
6. 用語集	29ページ

1. 策定の背景

1. 策定の背景

(1) 気候変動対策をめぐる国内外の動向

世界では



地球規模の課題である気候変動問題の解決に向けて、2015年にパリ協定が採択されました。また、2021年11月に閉幕した国連気候変動枠組み条約第26回締約国会議（COP26）では、「グラスゴー気候合意」が採択され、世界共通の長期目標として、1.5℃目標を再確認しました。

“世界的な平均気温上昇を工業化以前に比べて1.5℃に抑える努力を追求すること（1.5℃目標）”

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の「1.5℃特別報告書」において、気温上昇を約1.5℃に抑えるためには、2030年までに2010年比で世界全体のCO₂排出量を約45%削減することが必要とされています。この実現に向けて、世界各地が取組を進めており、120以上の国と地域が「2050年カーボンニュートラル」という目標を掲げています。

日本では



菅首相（当時）は2020年10月26日、第203回臨時国会において、**「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言**しました。

2021年4月22日、地球温暖化対策推進本部及び米国主催気候サミットにおいて、**2030年度に温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指すこと、さらに50%の高みに向け挑戦を続けること等**を発言しました。

これらの発言をうけ、地球温暖化対策計画（2021年10月閣議決定）では温室効果ガス排出削減目標が見直されました。

※温室効果ガスは二酸化炭素（CO₂）、メタン（CH₄）、一酸化二窒素（N₂O）、フロン類などがあります。

温室効果ガス排出量・吸収量 (単位：億t-CO ₂)		2013排出実績	2030排出量	削減率
		14.08	7.60	▲46%
エネルギー起源CO ₂		12.35	6.77	▲45%
部門別	産業	4.63	2.89	▲38%
	業務その他	2.38	1.16	▲51%
	家庭	2.08	0.70	▲66%
	運輸	2.24	1.46	▲35%
	エネルギー転換	1.06	0.56	▲47%
非エネルギー起源CO ₂ 、メタン、N ₂ O		1.34	1.15	▲14%
HFC等4ガス（フロン類）		0.39	0.22	▲44%
吸収源		-	▲0.48	-

岡山市では



2021年2月に**「ゼロカーボンシティ宣言」**を行い、2050年の二酸化炭素排出実質ゼロを目指すことを表明しました。

カーボンニュートラルとは

カーボンニュートラルとは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。カーボンニュートラルの達成には、温室効果ガスの排出量の削減並びに吸収作用の保全及び強化をする必要があります。
※ここでいう「排出量」「吸収量」は人為的なものを指します

ゼロカーボンシティとは

ゼロカーボンシティとは、「2050年までに二酸化炭素（CO₂）の排出量を実質ゼロにすることを旨とする、首長もしくは地方自治体として公表した都道府県または市町村」と定義されています。

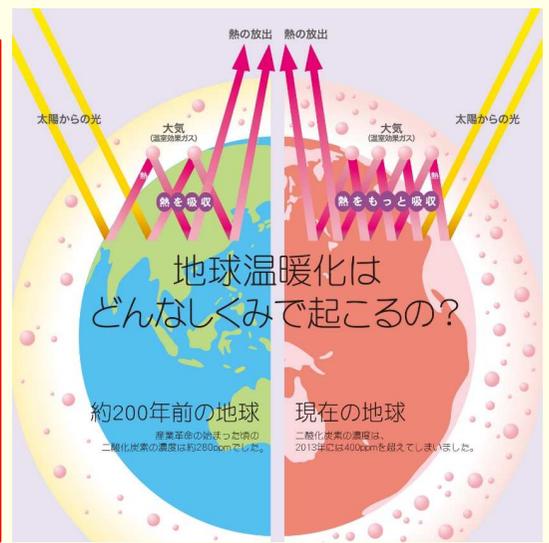
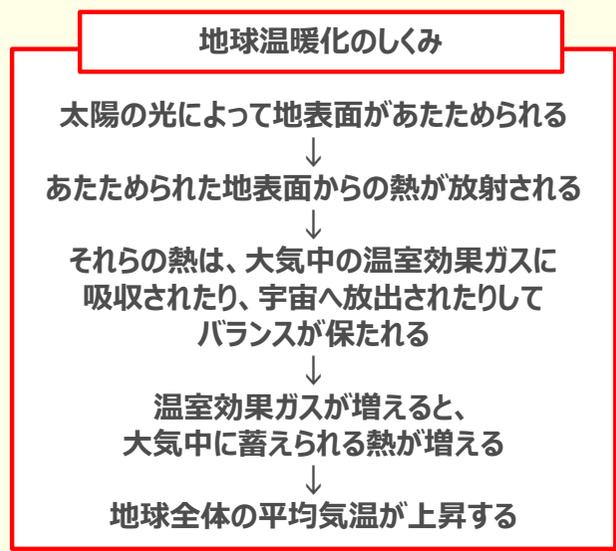
(2) 地球温暖化対策とゼロカーボンシティ

地球温暖化対策および持続可能な社会の構築のためには、化石燃料の使用を減らし、二酸化炭素 (CO₂) の排出量を削減することが重要です。

なぜ二酸化炭素 (CO₂) 排出量を減らすことが温暖化対策になるのか

① 地球温暖化を加速させているのは人為起源の温室効果ガス

温室効果ガスによって、大気中に熱が蓄えられています。



※ 温室効果ガスは二酸化炭素 (CO₂)、メタン (CH₄)、一酸化二窒素 (N₂O)、フロン類などがあります。

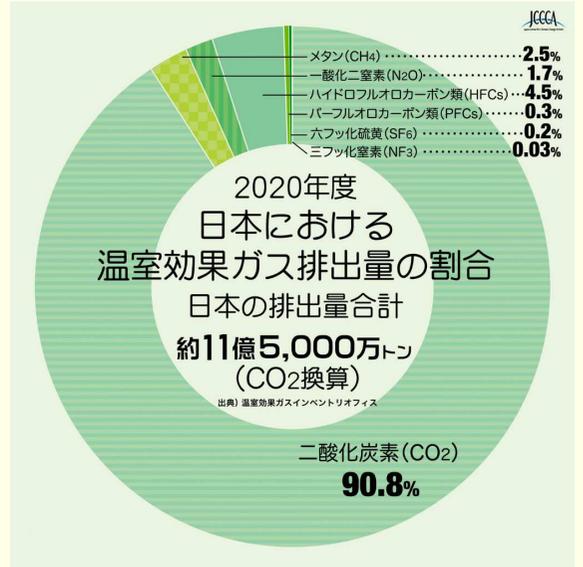
2021年8月に、気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第1作業部会 (自然科学的根拠を担当) の第6次評価報告書が公表されました。その中では**人間活動の影響で地球が温暖化している**ことについては「疑う余地がない」と結論づけられています。

大気中のCO₂が増える要因

約200年前の地球と比べて、大気中のCO₂が増えているのは、地中や岩石中に存在していた炭素がCO₂として排出されていることが大きく影響しています。特に、石炭や石油といった化石燃料に含まれていた炭素の排出が大きな割合を占めています。また、石炭や石油は限りがある資源のため、使い続ければいつかは枯渇してしまいます。大気中のCO₂を増やさず、また、将来的に限りある資源を有効に使い続けるためにも、化石燃料の使用を減らしていくことが重要です。

② 人為起源の温室効果ガスは二酸化炭素が最も多い

温室効果ガスの割合として最も多くを占めるのは二酸化炭素 (CO₂) です。



二酸化炭素排出量の削減 (ゼロカーボンシティ実現) が地球温暖化対策につながります

2. ロードマップの目的と位置づけ

2. ロードマップの目的と位置づけ

(1) ロードマップの目的と位置づけ

本ロードマップは、岡山市の各種計画に基づき、CO₂排出削減目標を達成し、ゼロカーボンシティ岡山を実現するための道筋を示すものです。

岡山市の中長期的なまちづくりの指針

岡山市第六次総合計画（後期中期計画）

未来へ躍動する 桃太郎のまち岡山

全国に誇る、傑出した安心を築く「健康福祉・環境都市」



岡山市が目指す環境像をより具体的に示す

第2次岡山市環境基本計画（改訂版）

豊かな自然と調和した持続可能なまち 岡山

賢い選択による低炭素化と地球にやさしい活動が
実現しているまち



岡山市の地球温暖化対策の計画

岡山市地球温暖化対策実行計画（改訂版）

賢い選択で みんなで低炭素化するまち 岡山市

- 暮らしと産業の低炭素化に取り組もう
- 低炭素型まちづくりをすすめよう
- 協働して低炭素化に取り組もう
- 気候変動への適応策を進めよう



岡山市のゼロカーボンシティ実現に向けた道筋

岡山市脱炭素ロードマップ

2050年度ゼロカーボンシティ岡山の実現

～みんなで進もう！ゼロカーボンシティ岡山～

本ロードマップは、岡山市地球温暖化対策実行計画（改訂版）の一部として、計画本体を補完するものと位置づけ、CO₂排出削減目標を達成し、ゼロカーボンシティを実現するための道筋を示しています。

3. 現状と課題

(1) 岡山市の温室効果ガスの排出状況（岡山市地球温暖対策実行計画より）

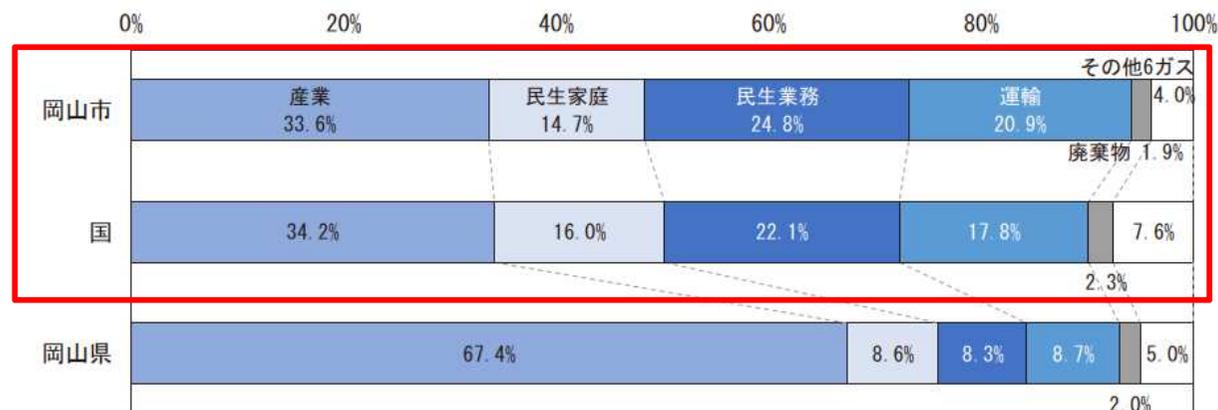
岡山市の温室効果ガス排出量と構成

岡山市の2013年度（基準年度）温室効果ガス排出量は、6,476千t-CO₂です。排出構成からは、産業・家庭・業務・運輸のそれぞれの部門からまんべんなく排出されていることがわかります。この構成は国の排出構成と類似しており、国の温室効果ガス排出削減目標に基づいた目標設定を行い、それぞれの分野の排出量を削減する取組が有効であると考えられます。

【岡山市の温室効果ガス排出状況(2013年度)】

区分			総排出量 (千t-CO ₂)	構成比 (%)
CO ₂	産業部門	非製造業	101	1.6%
		製造業	2,076	32.1%
	民生家庭部門		953	14.7%
	民生業務部門		1,607	24.8%
	運輸部門	自動車	1,281	19.8%
		鉄道・船舶	71	1.1%
	廃棄物部門		126	1.9%
	その他6ガス		261	4.0%
合計			6,476	100.0%

【岡山市・国・岡山県の温室効果ガス排出構成(2013年度)】



※岡山県の排出構成では岡山市以外の工業地域等の影響が大きく表れている。

岡山市の温室効果ガス削減目標

岡山市では2021年4月に示された、国の新たな温室効果ガス削減目標を反映し、2021年6月に岡山市の温室効果ガス削減目標の見直しが行われました。国の目標と同様に、2050年度に実質排出量ゼロ、2030年度に46%以上の削減（2013年度比）を目指しています。

岡山市の温室効果ガス削減目標

2013年度(基準年度)の岡山市の温室効果ガス総排出量に対し

短期目標(2020年度目標) : 9.7%削減

中期目標(2025年度目標) : 27.9%削減

(2030年度目標) : 46.0%削減

長期目標**(2050年度目標) : 実質排出量ゼロ**

岡山市の温室効果ガス排出構成は、国の排出構成と類似しています。

そのため、国の温室効果ガス排出削減目標を参考として、産業・家庭・業務・運輸のそれぞれの部門で排出削減に取り組むことが有効と考えられます。

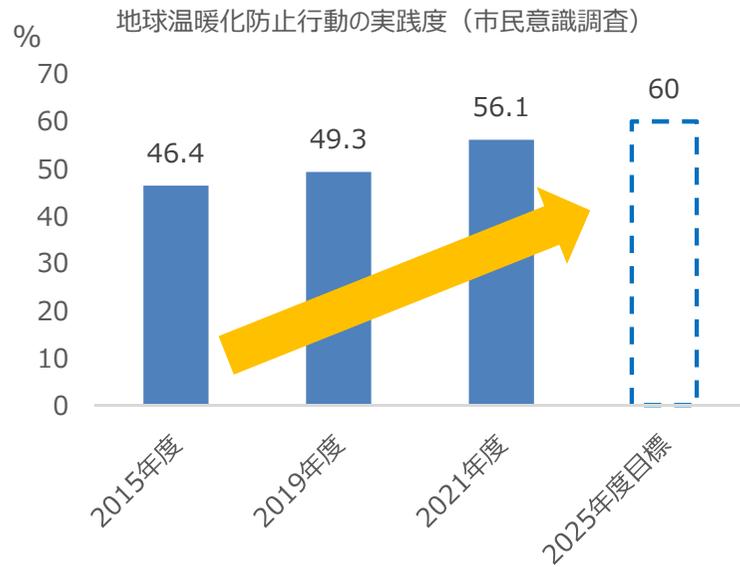
岡山市では、2030年度に2013年度比で46%以上の削減と、2050年度に実質排出量ゼロの目標を掲げています。

(2) 市民の状況

地球温暖化に対して、市民の関心や具体的な防止行動は徐々に広がりつつありますが、更なる意識と行動の変容が必要です。

市民意識調査の結果

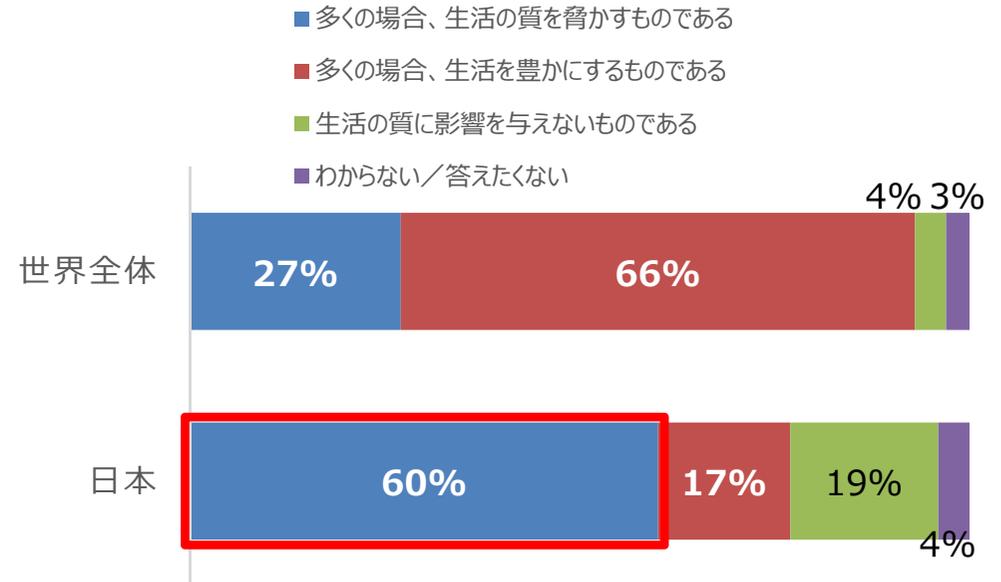
市民意識調査の結果、地球温暖化防止行動の実践度は年々上昇しており、市民意識の向上がうかがえます。2025年度の目標値である60%の達成に向けて、一層の行動変容の促進が必要です。



日本人の気候変動対策の捉え方

日本人は気候変動対策が「**生活の質を脅かすものである**」と考えている割合が60%と高く、逆に「生活を豊かにするものである」と考えている割合は低くなっています。世界全体では66%が気候変動対策が生活を豊かにするものであると回答しています。（World Wide Views, 2015）

あなたにとって、気候変動対策は、どのようなものですか



課題①

- 地球温暖化防止行動の実践度は6割弱にとどまっている
- 気候変動対策（地球温暖化対策）について否定的な印象が強い

解決に向けた方向性

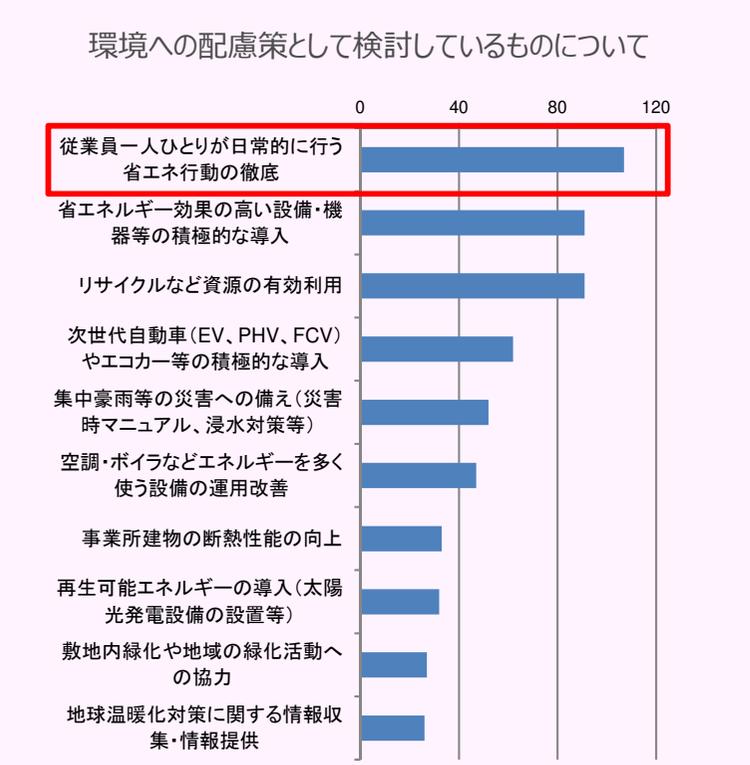
- 全ての市民が、地球温暖化対策を前向きに捉え、積極的に行動するように取り組んでいく

(3) 事業者の状況

地球温暖化に対して、事業者の関心は高まりつつありますが、具体的な行動に移すことができていない事業者が多く存在しています。

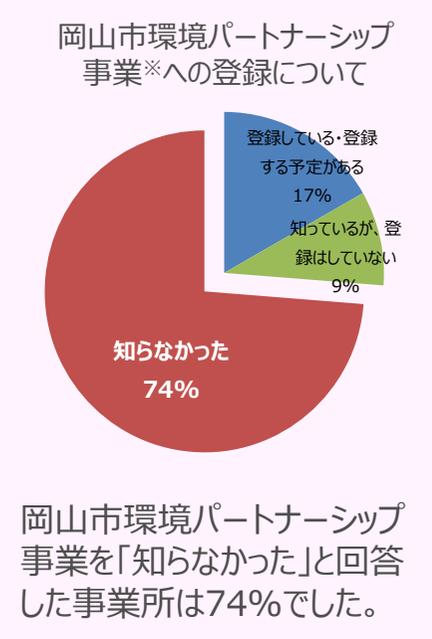
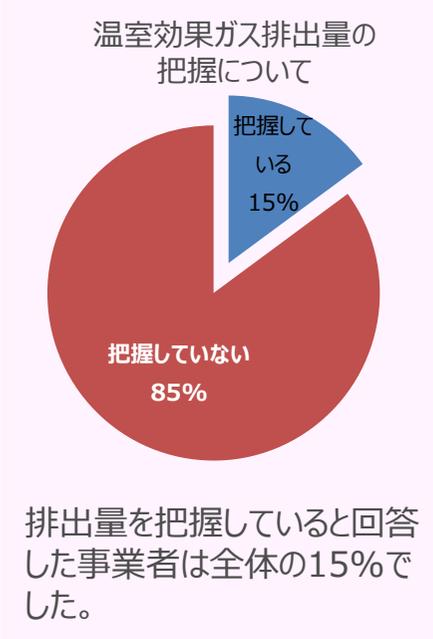
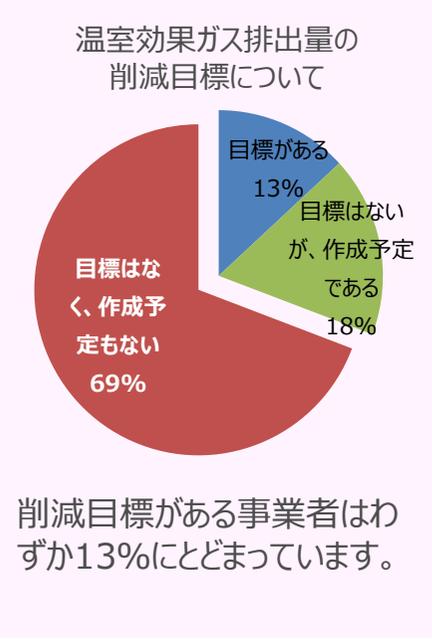
事業者アンケートの結果

岡山市内の221者の事業者を対象として、地球温暖化対策についてのアンケート調査を実施しました。



環境への配慮策として検討しているものについては、「従業員一人ひとりが日常的に行う省エネ行動の徹底」との回答が最も多く、全体の半数以上が回答しました。

また、今後省エネを進めていくうえで必要なものについては、コスト・資金に関連するものに次いで、「**従業員の意識向上・行動変容**」との回答が多くありました。



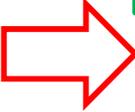
※岡山市環境パートナーシップ事業とは、自らの活動から発生する環境負荷を継続的に低減していくこととする工場や事業所を「グリーンカンパニー」と位置づけ、地域の環境を守り育てていくための取組です。

課題②

- 多くの事業者で、従業員の行動変容が重要と捉えている
- 温室効果ガス排出量の把握や削減目標の設定ができていない
- 岡山市の取組に対する認知度が低い

解決に向けた方向性

- 全ての事業者が、温室効果ガス排出削減に具体的に取り組んでいく
- 市は、事業者の具体的な取組につながるよう働きかけていく

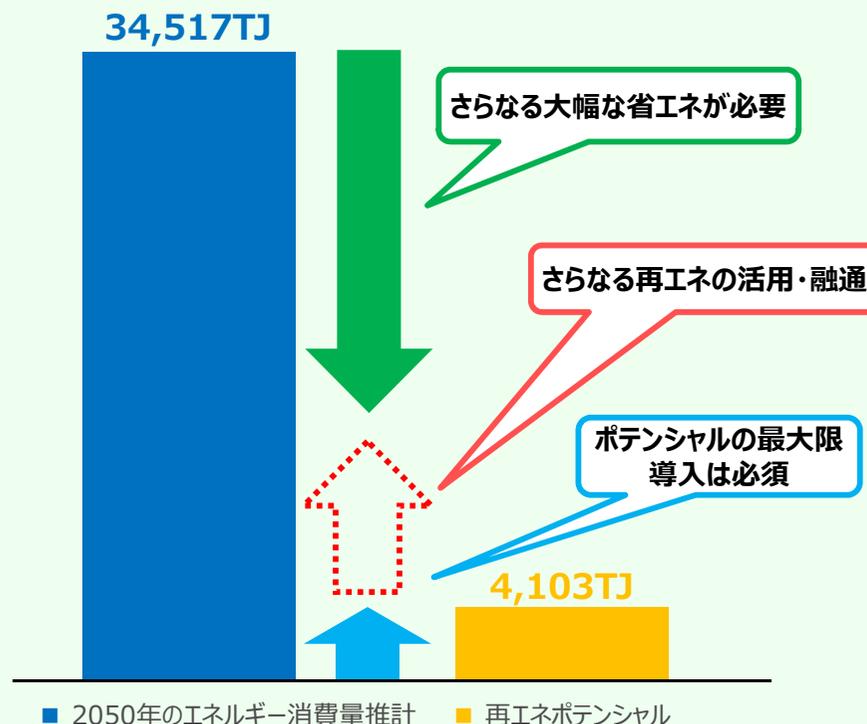


(4) エネルギー消費量と再エネポテンシャル

岡山市域の既存の再エネ導入量は約1,346TJであり、再エネポテンシャル**4,103TJ**の約33%となっています。また、最もポテンシャルの大きな再エネは太陽光となっています。

市域全体の2050年のエネルギー消費量は、**34,517TJ**※と推計されており、再エネポテンシャルは、2050年のエネルギー消費量推計の約12%です。

現時点でポテンシャルの推計に含まれていない雑種地等での太陽光活用や、市域外との再エネ電力の連携などを積極的に検討することが重要となります。



※岡山市再生可能エネルギー導入目標等の策定に向けた基礎調査（2021年）において推計された値

課題③

- ・ 現状では再エネポテンシャルの約3割しか活用できていない
- ・ 再エネポテンシャルを最大限活用しても、市域全体のエネルギー消費量の1割程度しか賅えない

解決に向けた方向性

- ・ 再エネポテンシャルを最大限に活用していく
- ・ 徹底的な省エネを進めていく
- ・ 新たな再エネポテンシャルや、市域外の再エネ電力等を活用していく

再生可能エネルギーの既存導入量とポテンシャル

既存の再エネ導入量	導入量 MW	年間発電量 MWh	エネルギー換算 TJ
太陽光	311	342,584	1,233.3
小水力	0.11	577	0.2
バイオマス	13.01	30,958	111.4
計	324.12	374,119	1,346.8

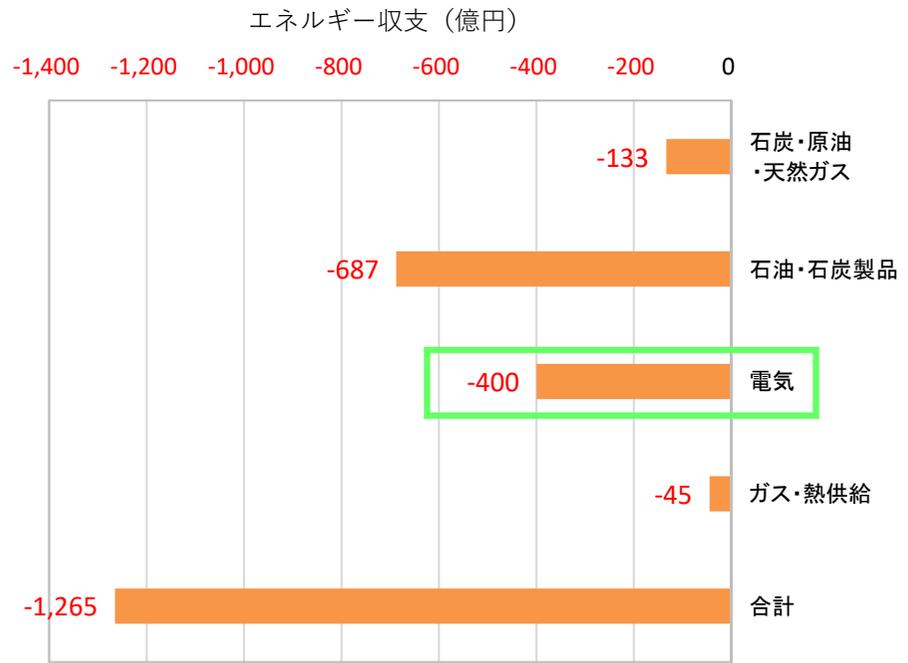
導入ポテンシャル	導入可能性 MW	年間発電量 MWh	エネルギー換算 TJ
太陽光-工業地域	50.3	55,330	199
太陽光-準工業地域	124.9	137,390	495
太陽光-近隣商業地域	33.8	37,180	134
太陽光-商業地域	36.0	39,600	143
太陽光-住宅	252.5	277,750	999
太陽光-農地	123	135,300	487
太陽光-ため池	14.1	15,510	56
太陽光（小計）	634.6	698,060	2,513
バイオマス（森林）	-	-	15.3
バイオマス（ごみ）	-	21,020	75.7
中小水力	0.53	3,250	12
風力	23	38,958	140.2
計	658.13	761,288	2756.2

合計	容量MW	年間発電量 MWh	エネルギー換算 TJ
	982.25	1,135,407	4,103

(5) エネルギー収支

岡山市のエネルギー収支

岡山市の2018年のエネルギー収支は**-1,265億円**であり、電気だけでも**400億円**が域外へ流出しています。

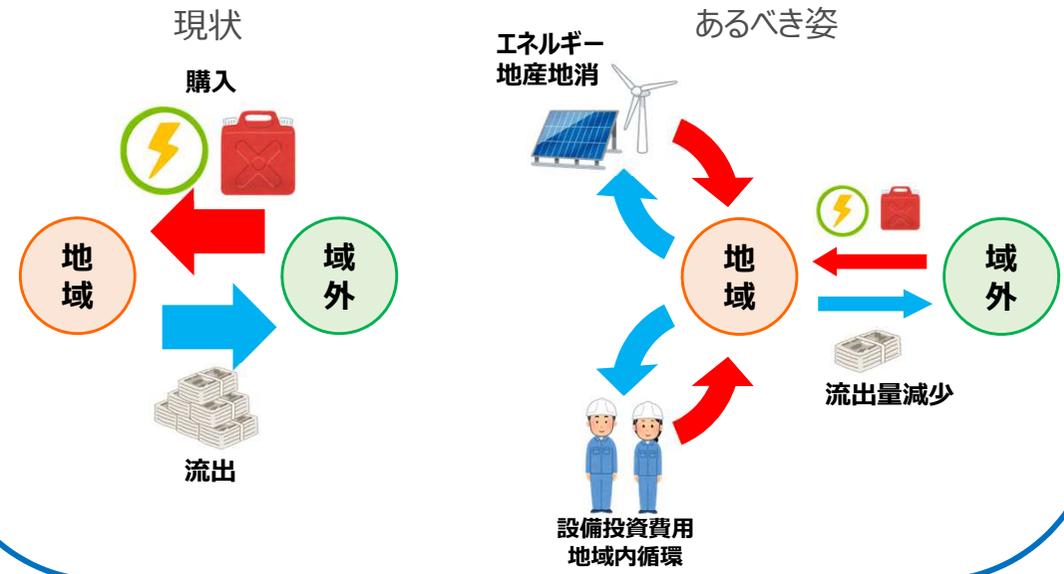


環境省の地域経済循環分析より算出

エネルギーの地産地消

日本では「域外から多くのエネルギーを購入し、その代金を域外に支払う」形が中心となっています。しかしながらあるべき姿として、以下のような市域内でエネルギーをつくり、消費していく『**エネルギーの地産地消**』の形を進める必要があります。

- ① 省エネを進め、地域外からのエネルギー購入量を減らす
- ② 設備投資を通して、地域の事業者へ資金を振り向ける
- ③ 地域内で再生可能エネルギー等を活用して電力や熱を生産し、域外から購入していたエネルギーに代替する（エネルギーの地産地消をする）



課題④

- 巨額のエネルギー代金が域外に流出している

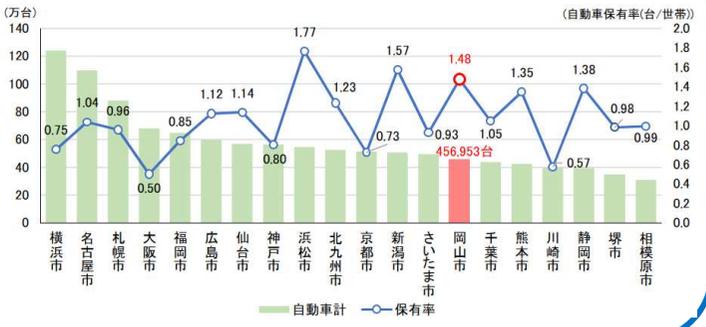
解決に向けた方向性

- 域内でエネルギーの地産地消を進めていく

(6) 交通関係の現状

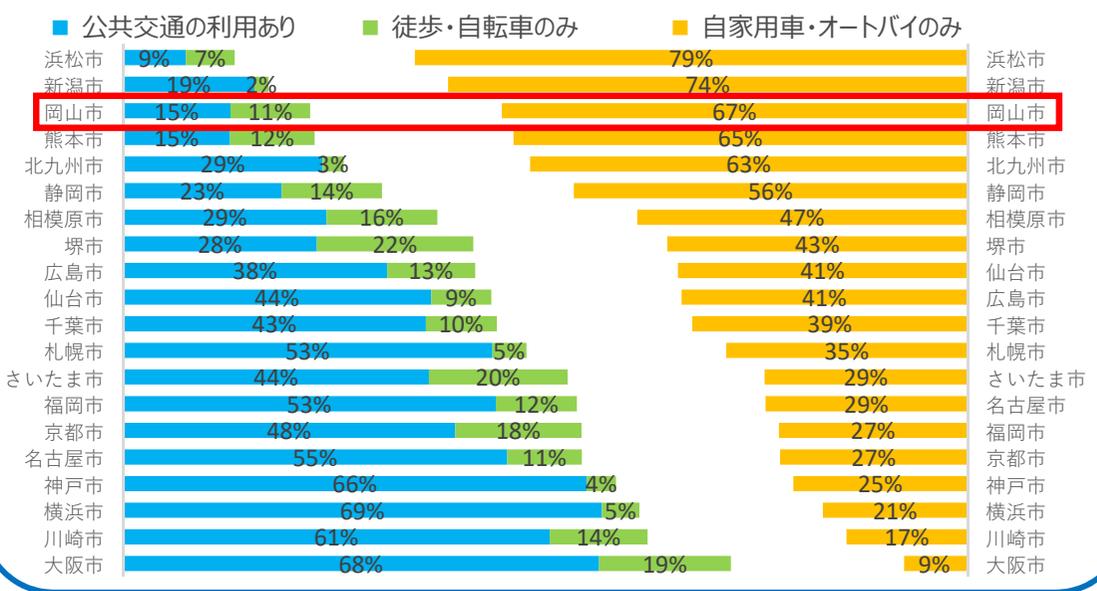
自動車保有率

岡山市の世帯あたりの自動車保有率は1.48台/世帯で政令指定都市の中では上位となっています。



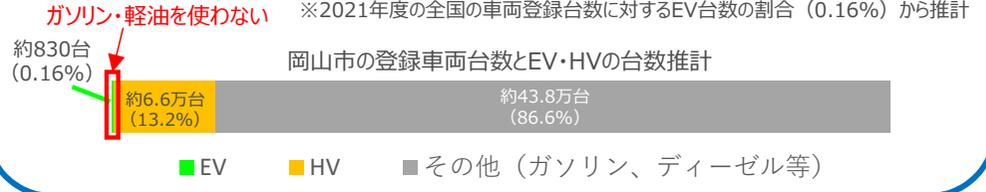
通勤・通学の交通手段

岡山市の通勤・通学者が利用する交通手段は、自家用車・オートバイのみの割合が多く、公共交通の利用や徒歩・自転車のみは少なくなっています。(政令指定都市比較) ※市内から市内への通勤・通学のみ対象



次世代自動車の普及台数

岡山市の2021年度の乗用車と貨物車の登録台数合計は505,144台です。そのうち、EV（電気自動車）の台数は830台程度※と推計されます。HV（ハイブリッド車）は6.6万台程度と推計され、FCV（水素自動車）は現時点でEVよりも少ないと推測されます。



自動車の温室効果ガス排出割合

運輸部門の温室効果ガス排出量のうち、約95%は自動車から排出されています。また、排出量全体に対しても約20%を占めています。

【岡山市の温室効果ガス排出状況(2013年度)】

区分	総排出量 (千t-CO ₂)	構成比 (%)	
CO ₂	産業部門 非製造業	101	1.6%
	産業部門 製造業	2,076	32.1%
	民生家庭部門	953	14.7%
	民生業務部門	1,607	24.8%
	運輸部門	1,281	19.8%
運輸部門 鉄道・船舶	71	1.1%	
廃棄物部門	126	1.9%	
その他6ガス	261	4.0%	
合計	6,476	100.0%	

課題⑤

- 自動車への依存度が高い
- 運輸部門の温室効果ガスの9割以上が自動車から排出されている
- 自動車が生域全体の約2割にのぼる温室効果ガスを排出している
- ガソリン・軽油を使用しない次世代自動車の普及率が低い

解決に向けた方向性

- 自動車の利用機会を減らしていく
- 自動車以外の移動手段を利用していく
- 次世代自動車に切り替えていく

4. ゼロカーボンシティ実現に向けて

(7) 課題の整理

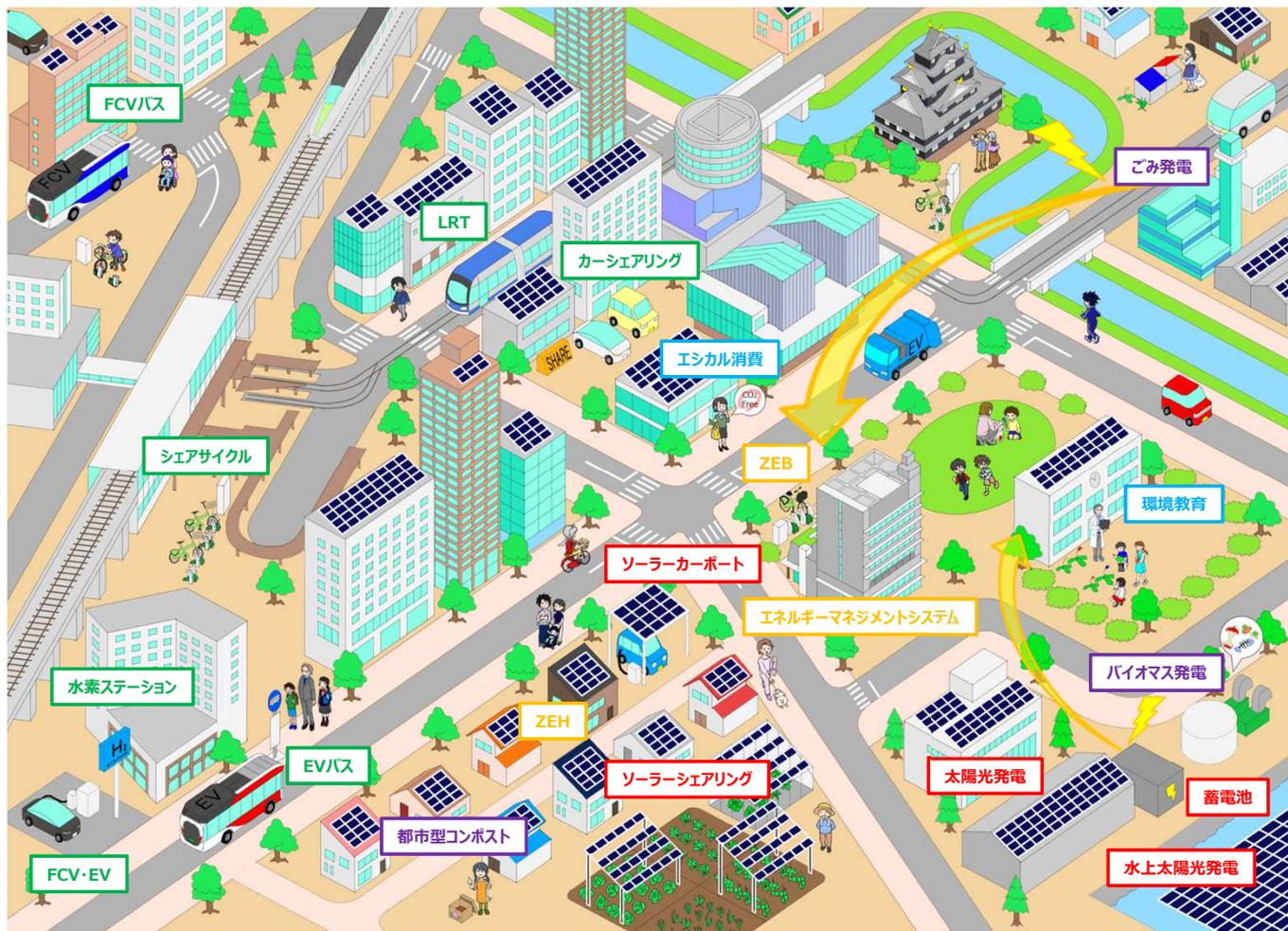
課題とその解決に向けた方向性を整理すると、重点的に取り組むべき項目として、「市民・事業者の行動変容」、「市の率先行動」、「再生可能エネルギーの導入促進」、「省エネルギーの推進」、「スマートムーブの推進」、「地域連携の推進」の6つの項目が導き出されます。そのなかでも、「市民・事業者の行動変容」と「市の率先行動」はすべての課題に関わっており、重点的に取り組んでいく必要があります。

	課題	解決に向けた方向性	取り組むべき主体	取り組むべき項目
①	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化防止行動の実践度は6割弱にとどまっている 気候変動対策（地球温暖化対策）について否定的な印象が強い 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての市民が、地球温暖化対策を前向きに捉え、積極的に行動するように取り組んでいく 	市民 行政	市民・事業者の行動変容 市の率先行動
②	<ul style="list-style-type: none"> 多くの事業者で、従業員の行動変容が重要と捉えている 温室効果ガス排出量の把握や削減目標の設定ができていない 岡山市の取組に対する認知度が低い 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての事業者が、温室効果ガス排出削減に具体的に取り組んでいく 市は、事業者の具体的な取組につながるよう働きかけていく 	事業者 行政	市民・事業者の行動変容 市の率先行動
③	<ul style="list-style-type: none"> 現状では再エネポテンシャルの約3割しか活用できていない 再エネポテンシャルを最大限活用しても、市域全体のエネルギー消費量の1割程度しか賅えない 	<ul style="list-style-type: none"> 再エネポテンシャルを最大限に活用していく 徹底的な省エネを進めていく 新たな再エネポテンシャルや、市域外の再エネ電力等を活用していく 	市民 事業者 行政	市民・事業者の行動変容 市の率先行動 再生可能エネルギーの導入促進 省エネルギーの推進 地域連携の推進
④	<ul style="list-style-type: none"> 巨額のエネルギー代金が域外に流出している 	<ul style="list-style-type: none"> 域内でエネルギーの地産地消を進めていく 	市民 事業者 行政	市民・事業者の行動変容 市の率先行動 再生可能エネルギーの導入促進 地域連携の推進
⑤	<ul style="list-style-type: none"> 自動車への依存度が高い 運輸部門の温室効果ガスの9割以上が自動車から排出されている 自動車が市域全体の約2割にのぼる温室効果ガスを排出している ガソリン・軽油を使用しない次世代自動車の普及率が低い 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の利用機会を減らしていく 自動車以外の移動手段を利用していく 次世代自動車に切り替えていく 	市民 事業者 行政	市民・事業者の行動変容 市の率先行動 スマートムーブの推進

4. ゼロカーボンシティ実現に向けて

(1) 将来ビジョン

2050年ゼロカーボンシティを実現した岡山市のイメージ図です。いたるところで日常的に脱炭素につながる光景を目にすることができます。



再生可能エネルギー

- あらゆる場所に**太陽光発電設備**等が設置され、再生可能エネルギーが最大限に導入されています。
- 蓄電技術**によって、再生可能エネルギーが効率的に活用されています。

省エネルギー

- 住宅や建築物の省エネ化が進み、**ZEH**や**ZEB**が一般化しています。
- 高効率機器**や**エネルギーの「見える化」**によって運用改善が図られ、大幅な省エネが進んでいます。

スマートムーブ

- 徒歩**や**自転車**で移動する人が増えています。
- LRTやEV・FCVバスといった**公共交通機関**の利用率が上昇しています。
- カーシェアリング**を利用する人が増えているとともに、**EV・FCV**でCO₂を排出しない移動が普及しています。

市民・事業者の行動変容

- 脱炭素に寄与する行動**、**カーボンフットプリント**を意識した**選択**が日常的に行われています。
- 「**温室効果ガス**をどれだけ削減したか」や「どれだけ**環境に配慮**したか」という**価値基準**による選択が行われています。
- 「**エシカル**」や「**サステナブル**」といったスタイルが確立し、市民生活に浸透しています。

地域連携

- 循環共生圏が構築され、**地域間**や**地域内**で**連携**することによって、自立した社会となっています。
- 生ごみや廃食用油などの**都市型バイオマス**の**活用**や、**4R**の**徹底**など限りあるエネルギーや資源が循環するしくみができています。

(2) 基本的な考え方

～みんなで進もう！ゼロカーボンシティ岡山～

賢い選択で みんなで低炭素化するまち 岡山市

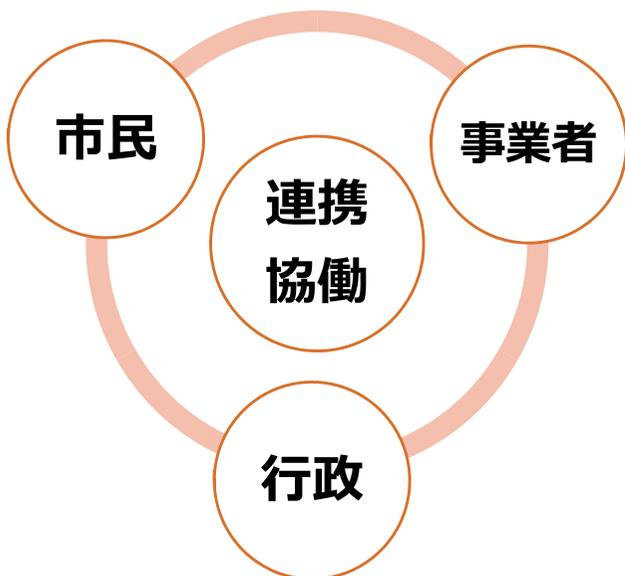
岡山市地球温暖化対策
実行計画 環境目標

気候変動対策や持続可能な社会の実現に向けて、ゼロカーボンシティを目指すことは、非常に重要な課題です。

しかしながら、ゼロカーボンシティを実現するために、生活が不便になることは避けなければなりません。

岡山市では、脱炭素に向けた“賢い選択”を通して、「生活が豊かに便利になった」「安心して暮らせるようになった」と感じられるように、市民・事業者と連携・協働してゼロカーボンシティの実現を目指します。

ゼロカーボンシティ実現のために

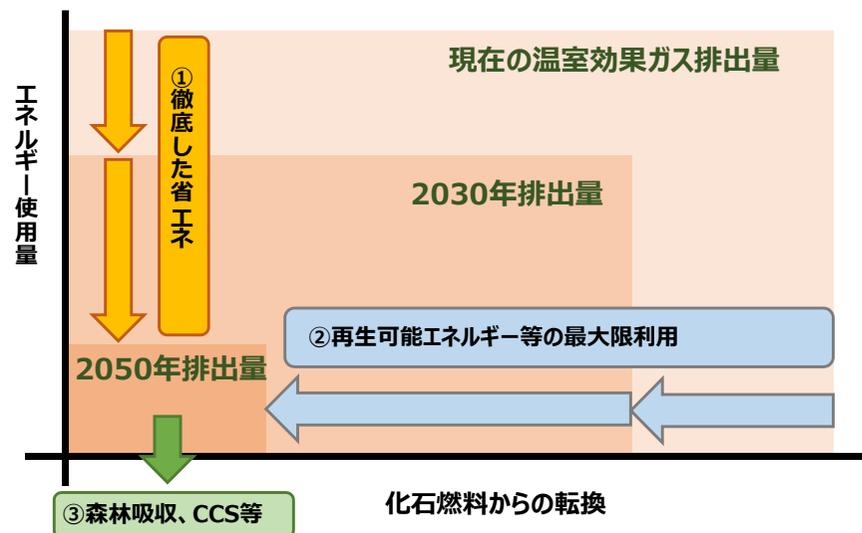


ゼロカーボンシティを実現するためには、市民一人一人・事業者一者一者の協力が不可欠です。

ゼロカーボンを進める一般的な手順

- ① エネルギー使用量を徹底して削減
- ② 化石燃料由来エネルギーを再エネ等のCO₂を排出しないエネルギーへ転換
- ③ どうしても発生する温室効果ガスは森林吸収やCCS（CO₂貯留技術）等に対応

みんなで
取り組み、
みんなで
進める



(3) ゼロカーボンシティ実現に向けた取組の考え方

岡山市の現状と課題

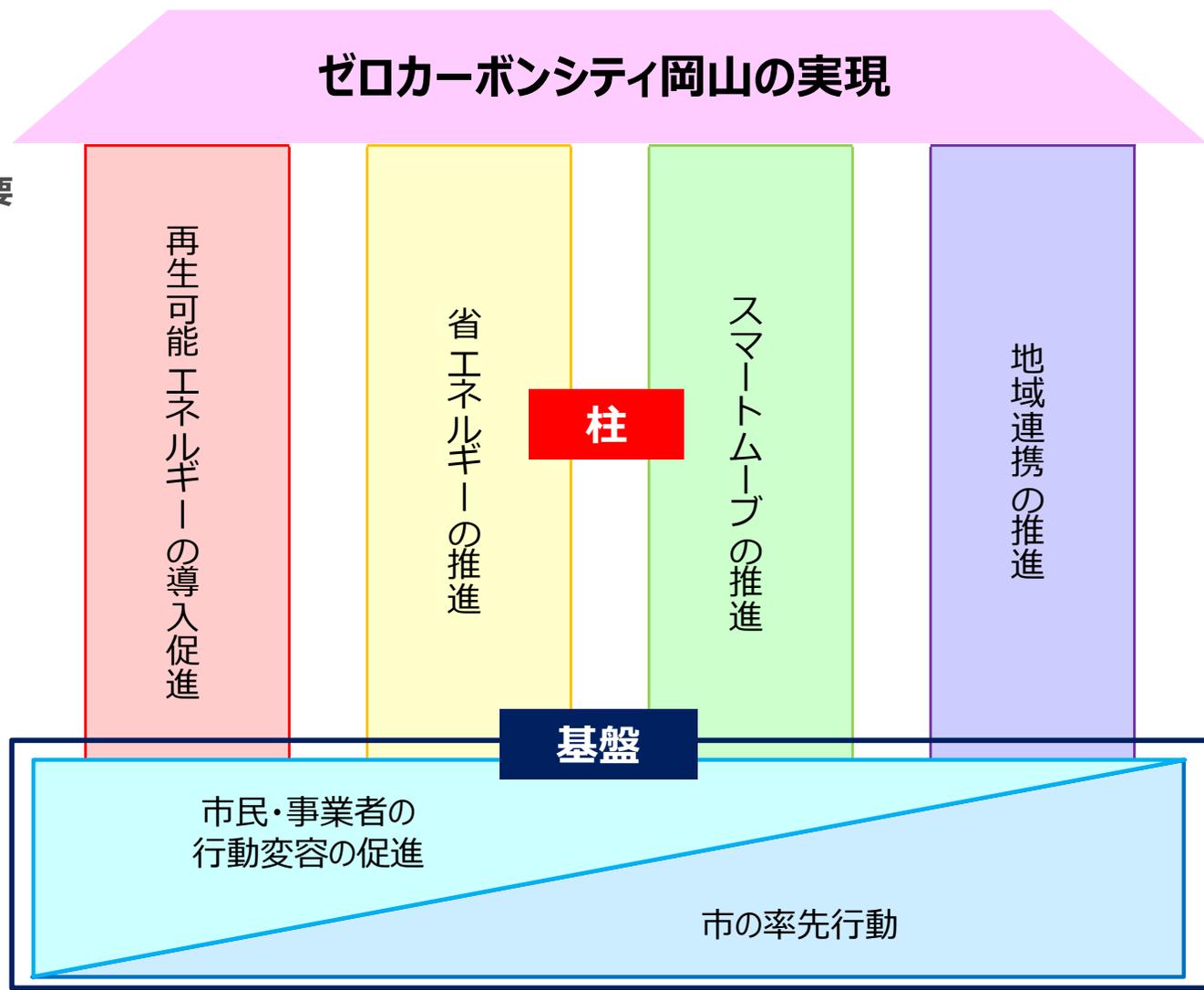


課題解決に必要な6つの項目



ゼロカーボンシティ実現に向けた基盤と柱のイメージ

ゼロカーボンシティ岡山の実現



特に「市民・事業者の行動変容」、「市の率先行動」が重要

ゼロカーボンシティ実現の基盤となり、他の取組を効果的に進めることが可能になります。

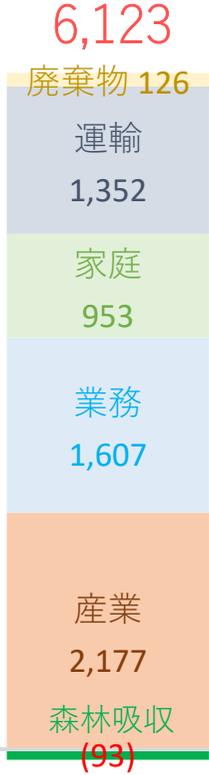
基盤となる項目	市民・事業者の行動変容の促進	ゼロカーボンシティ実現に向けた様々な取組を効果的に進めるために、2030年まで特に重点を置いて進める。
	市の率先行動	
柱となる項目	再生可能エネルギーの導入促進	ゼロカーボンシティの実現に直接的に寄与する取組のうち、重点的に取り組む施策。
	省エネルギーの推進	
	スマートムーブの推進	
	地域連携の推進	

5. ロードマップ

(1) 二酸化炭素排出削減の目安とイメージ



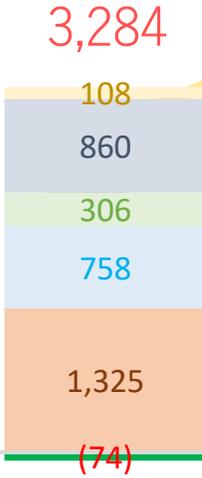
単位：千t-CO₂



既存技術の最大限活用
電力の脱炭素化 (再エネの導入等)
市民・事業者の意識と行動の変容

2030年まで重点的に取り組む

基盤となる項目	市民・民間事業者の行動変容の促進
	市の率先行動
柱となる項目	再生可能エネルギーの導入促進
	省エネルギーの推進
	スマートムーブの推進
	地域連携の推進



革新的技術の実装
電力の更なる脱炭素化
電力や水素へのエネルギー転換

2050年度ゼロカーボンシティ岡山の実現

実質0

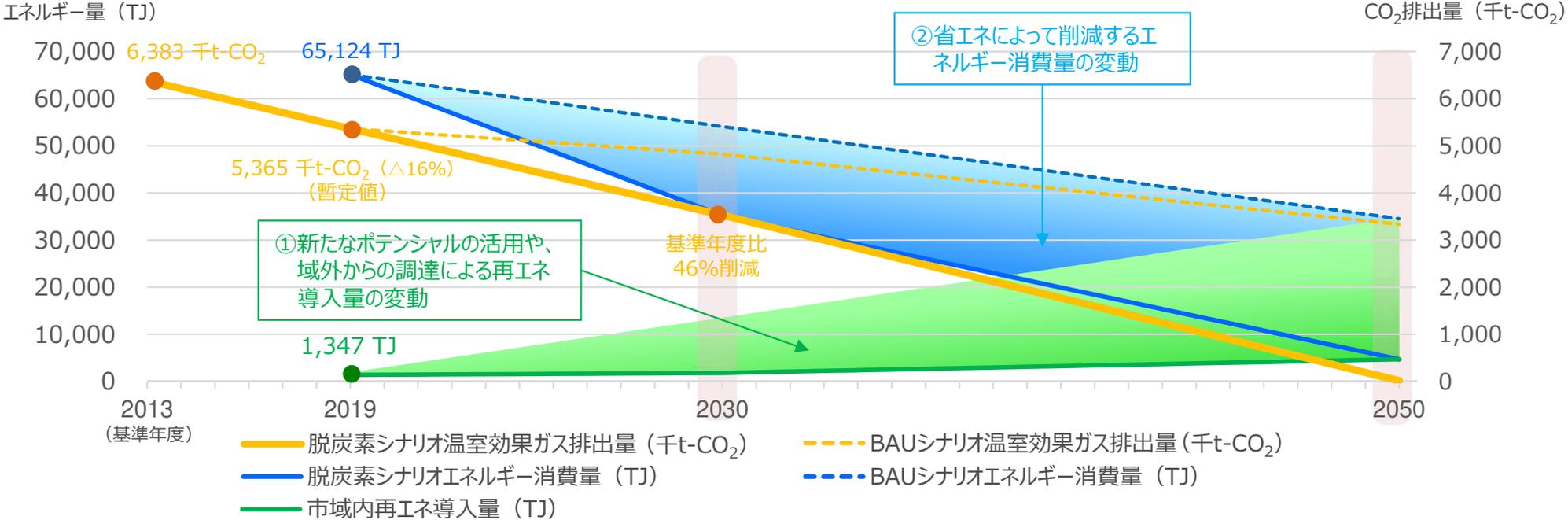
国の温室効果ガス排出削減目標を参考に、岡山市の部門別CO₂削減量の目安を算出しました。それぞれの分野で、目安を参考として排出削減に取り組んでいく必要があります。

部門別CO ₂ 削減量の目安 (千t-CO ₂)			
部門	2013年度	2030年度	2050年度
産業	2177	1325 (▲39.2%)	実質排出量ゼロ
業務その他	1607	758 (▲52.8%)	
家庭	953	306 (▲67.9%)	
運輸	1352	860 (▲36.4%)	
廃棄物	126	108 (▲14.3%)	
森林吸収	-93	-74	
合計	6123	3284 (▲46.4%)	0 (▲100%)

※小数点以下を四捨五入しており、それぞれの値を合計しても、合計値とは一致しません。

(2) 脱炭素シナリオと再生可能エネルギー導入目標

現状のまま追加的な対策をとらなかった場合（BAUシナリオ）、2050年二酸化炭素排出実質ゼロを達成することはできません。今後、脱炭素シナリオを目安としたエネルギー消費量の大幅な削減と、再生可能エネルギーの最大限導入を進めることで、ゼロカーボンシティの実現を目指します。技術革新によって、現時点ではポテンシャルに計算されていない再エネを活用できるようになったり、市域外との連携によって再エネ電力が調達できるようになることで、エネルギー消費量をどこまで削減する必要があるのかは変動します。



岡山市の再エネポテンシャルは、エネルギー消費量に対して1割程度しかありません。そのため、ポテンシャルの最大限活用が必須となります。

岡山市の再生可能エネルギー導入目標（累積値）			
発電方法	現状（基礎調査より）	2030年度	2050年度
太陽光	311.4 MW	473.9 MW	1035 MW
中・小水力	0.11 MW	0.11 MW	0.53 MW
バイオマス	8.54 MW	8.54 MW	12.15 MW
風力	-	-	23 MW

※太陽光発電設備は2030年以降の技術革新を見込んでパネルの変換効率向上を想定して導入量を計算
 ※中・小水力、風力はREPOSのポテンシャルの最大限導入を想定

(3) ゼロカーボンシティ実現に向けた取組 ～ロードマップ表～

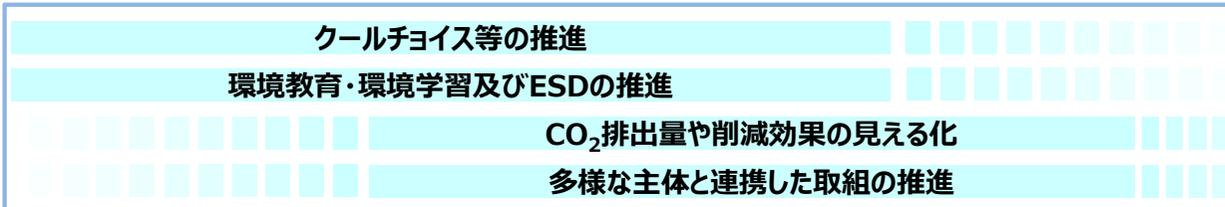
		2023年度	2030年度 46%削減	2050年度 実質0
基盤となる項目	市民・事業者の行動変容の促進	<ul style="list-style-type: none"> クールチョイス等の推進 環境教育・環境学習及びESDの推進 CO₂排出量や削減効果の見える化 多様な主体と連携した取組の推進 		<ul style="list-style-type: none"> 市民・事業者の脱炭素行動の定着 市民・事業者との協働体制の構築
	市の率先行動	<ul style="list-style-type: none"> 市有施設への太陽光発電設備、省エネルギー設備・機器等の導入 再エネ100宣言 RE Actionの実現 公用車の次世代自動車への転換 廃棄物発電電力の有効活用 		<ul style="list-style-type: none"> 市有施設の原則ZEB化 市有施設の再エネ100を達成
柱となる項目	再生可能エネルギーの導入促進	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電設備の導入促進 廃棄物由来のバイオマスエネルギーの利用促進 その他の再生可能エネルギーの導入促進 グリーン電力の導入促進 		<ul style="list-style-type: none"> 再エネポテンシャルの最大限活用
	省エネルギーの推進	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー性能の高い設備・機器の導入促進 建築物のZEH化・ZEB化の推進 エネルギーの見える化の推進 		<ul style="list-style-type: none"> 新築住宅・建築物のZEH化・ZEB化
	スマートムーブの推進	<ul style="list-style-type: none"> 自動車利用の抑制・転換の推進 公共交通利用の促進 カーシェアリング・シェアサイクル等の利用促進 次世代自動車（EV・FCV）の普及推進 		<ul style="list-style-type: none"> 次世代自動車の普及
	地域連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの地産地消の推進・自立分散型社会の推進 岡山連携中枢都市圏を含めた域外とのエネルギー連携 循環型社会の推進 		<ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏の確立 岡山連携中枢都市圏全体での脱炭素化

(4) 各項目における取組

市民・事業者の行動変容の促進



市民・事業者の行動変容の促進



- 市民・事業者の脱炭素行動の定着
- 市民・事業者との協働体制の構築

主要な取組

取組	概要
クールチョイス等の推進	クールチョイス等を推進し、市民・事業者の温室効果ガス削減のための「賢い選択」を促します。
環境教育・環境学習及びESDの推進	世界的なESD推進都市である岡山市の特徴を活かし、市民や事業者が積極的に地球温暖化について学び、考え、行動していく取組を広げていきます。
CO ₂ 排出量や削減効果の見える化	家庭や事業者のCO ₂ 排出量の見える化を図り、削減目標の設定や、自分事として捉えることを推進します。また、製品の製造から廃棄までに排出されるCO ₂ を見える化し、新たな価値基準として広く周知を図ります。
多様な主体と連携した取組の推進	市民、事業者、民間団体等の様々な主体が、行政との連携や相互の連携をしながら、幅広く温室効果ガス削減に向けて活動していくことを推進します。

取組のメリット

脱炭素行動の定着

- 賢い選択により、無駄な支出や時間のロスが減り、必要なことに金銭や時間を費やすことができる
- 個々のライフスタイルが尊重されると同時に、それぞれのライフスタイルが他者からの注目の対象に成り得る

従業員の行動変容

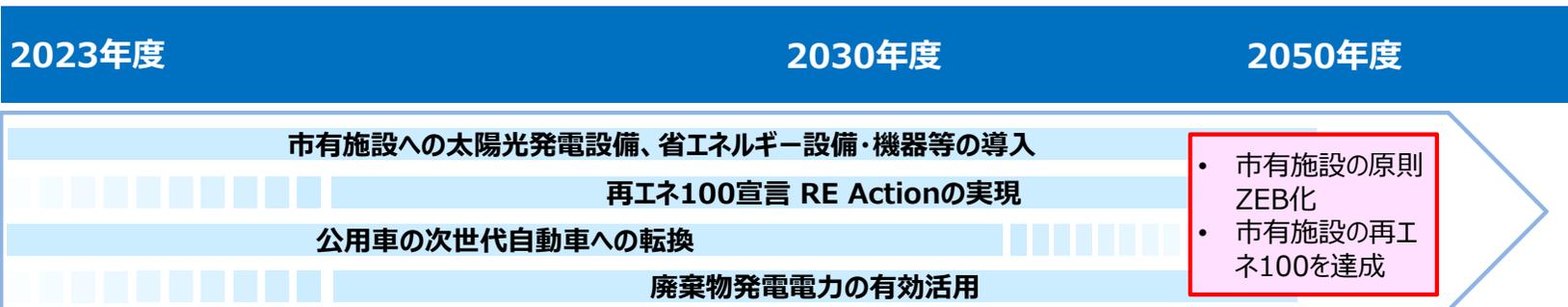
- 従業員が省エネ行動を実践することで、効率化を図ったり、光熱費を削減したりできる
- 事業所のイメージアップにつながり、新たな人材の確保等にプラスとなる

主な成果指標

内容	2019年度	2025年度目標値
地球温暖化防止行動の実践度 ※市民意識調査より算出	49.3%	60%
環境パートナーシップ事業に参加する市民の割合	7.9%	10%
環境パートナーシップ事業の登録事業所数	946事業所	1,500事業所

(4) 各項目における取組

市の率先行動



主要な取組

項目	概要
市有施設への太陽光発電設備、省エネルギー設備・機器等の導入	市有施設へ太陽光発電システムや省エネルギー設備・機器を率先導入し、市有施設の脱炭素化（ZEB化など）を目指します。
再エネ100宣言 RE Actionの実現	2050年までに市有施設で使用する電力を、すべて再エネ由来に切り替えます。
公用車の次世代自動車への転換	公用車の車両更新の際、積極的にEVやFCVへの転換を行います。
廃棄物発電電力の有効活用	廃棄物焼却施設で発電した電力を市有施設で利用するなど、エネルギーの地産地消を進めていきます。

取組のメリット

市が率先して行うメリット

- ・ 市民、事業者が実施する際のモデルや模範となる
- ・ 取組を内外に発信することで、地域のアピールとなる
- ・ 省エネ等で無駄を減らした分だけ、行政サービスに還元できる

主な成果指標

内容	基準年度	2025年度目標値
岡山市役所の事務事業からの温室効果ガス排出量	205,454 t-CO2 (2013)	157,086 t-CO2
市有施設への太陽光発電システム設置件数 (累計)	108件 (2019)	130件
公用車への電気自動車の導入	35台 (2019)	200台
公共の電気自動車充電設備の設置基数	13基 (2021)	20基

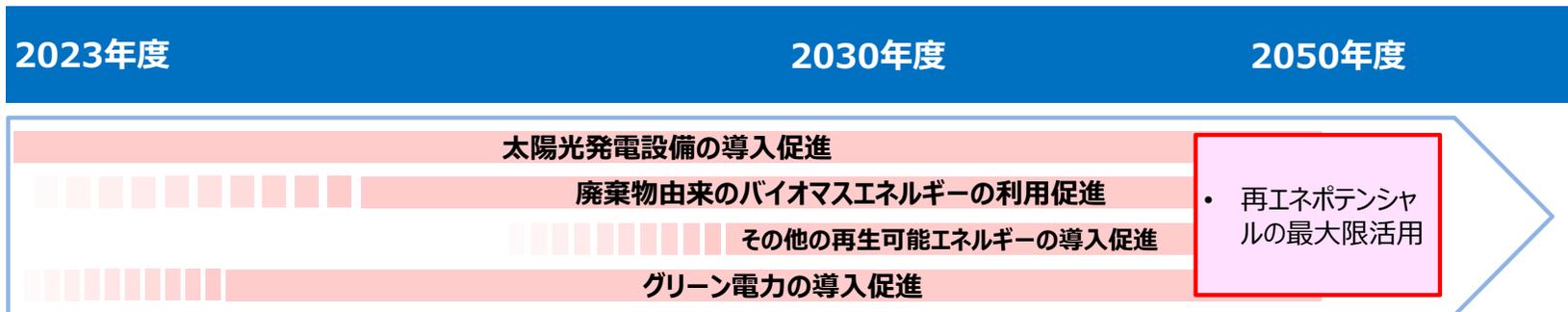


この岡山市新庁舎イメージパースは基本設計時点のものであり、今後変更の可能性がります。



(4) 各項目における取組

再生可能エネルギーの導入促進



再生可能エネルギーの導入促進

主要な取組

項目	概要
太陽光発電設備の導入促進	住宅やビル、工場など、あらゆる場所への太陽光発電設備の導入を促進します。
廃棄物由来のバイオマスエネルギーの利用促進	生ごみ等の廃棄物や廃食用油などの都市型バイオマスの効果的な利用を促進します。
その他の再生可能エネルギーの導入促進	上記以外の再エネについて、ポテンシャルを最大限活用できるように、導入手法や導入時期等の検討を進めます。
グリーン電力の導入促進	市民・事業者が再エネ由来の電力を選択することを促します。

取組のメリット

住宅への太陽光発電システムの導入

- ・ 自宅に電源を持ち、余剰分は売電することが可能になる
- ・ FIT制度等を利用することで投資回収が可能
- ・ 自家消費する場合、家計がエネルギー価格の変動の影響を受けにくくなる
- ・ 停電しても部分的に電気が使える

事業所への太陽光発電システムの導入

- ・ 自家消費する場合、エネルギー価格の変動の影響を受けにくくなる
- ・ 再エネ電力を使うことで、温室効果ガスの排出量が低減でき、環境意識の高い企業からの求めにこたえることができる

主な成果指標

内容	2019年度	2025年度目標値
市内の太陽光発電システム設置容量（累計）	299千kW	413千kW
市民共同発電所の設置数（累計）	8件	15件

(4) 各項目における取組

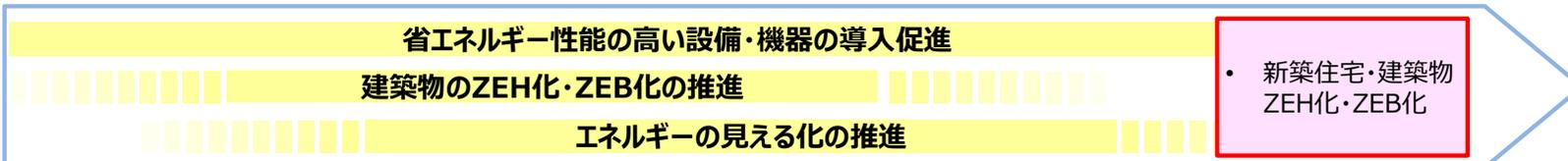
省エネルギーの推進

2023年度

2030年度

2050年度

省エネルギーの推進



主要な取組

項目	概要
省エネルギー性能の高い設備・機器の導入促進	住宅やビル、工場など、あらゆる場所で省エネルギー性能の高い設備・機器の導入を促進します。
建築物のZEH化・ZEB化の推進	住宅や非住宅建物のエネルギー使用量を大幅に削減できるZEHやZEBの普及を推進します。
エネルギーの見える化の推進	エネルギーマネジメントシステムの導入や省エネ診断の利用を促進します。

取組のメリット

消費エネルギーの見える化

- 実績との比較により、省エネを実感
- 光熱費の節約
- 生産計画の精度向上
- デマンドコントロールによるピークカットやピークシフト
- 機器トラブルの早期発見につながる

ZEH

- 健康、快適な住環境を享受できる（断熱効果で夏は涼しく、冬は熱が逃げにくい。また、結露予防によるカビの発生抑制、冬のヒートショック対策等の効果がある。）
- 換気の効率向上（換気熱交換システムなら冷暖房効率を極力落とさずに室内の空気環境を清浄に保持）
- 光熱費の節約

ZEB

- 消費エネルギーの大幅削減による光熱費の低減
- 室内環境の質を維持しつつ、大幅な省エネを実現
- 防災レジリエンスの向上
- 副次的な効果として遮音・防音効果の向上
- 不動産価値の上昇



(4) 各項目における取組

スマートムーブの推進



スマートムーブの推進



・ 次世代自動車の普及

主要な取組

項目	概要
自動車利用の抑制・転換の推進	徒歩や自転車など、自動車以外の手段で快適に移動できる環境の整備を進め、自動車利用の抑制と移動手段の転換を推進します。
公共交通利用の促進	効果的で使いやすい公共交通へ改善するとともに、公共交通利用を促すための取組を進めます。
カーシェアリング・シェアサイクル等の利用促進	自動車を所有していなくても、必要な時に移動ができるカーシェアリングやシェアサイクル等の利用を促進します。
次世代自動車 (EV・FCV) の普及推進	走行時、温室効果ガスを排出しないEVやFCVの普及を推進します。また、次世代自動車に関わるインフラの整備を推進します。

取組のメリット

スマートムーブ

- ・ 健康的な生活の促進（運動量の確保等）
- ・ 徒歩・自転車利用で密を回避、交通渋滞の緩和
- ・ 移動途中での新たな発見
- ・ 燃費の向上
- ・ 自動車購入・維持費用の節約、TPOに合わせて好きな車を選択可能
- ・ 必要なときに必要な分だけ利用ができる

主な成果指標

内容	基準年度	目標値
市民1人あたりの公共交通利用回数	80回/年・人 (2016)	100回/年・人 (2027)
自宅から都心や拠点に公共交通で30分以内に行ける人口	30.3万人 (2015)	36.1万人 (2025)
都心の歩行者数 (休日)	4,504人 (2015)	5,300人 (2027)
地元検討組織が主体となった生活交通が導入されている地域の人口	23,381人 (2017)	39,000人 (2027)

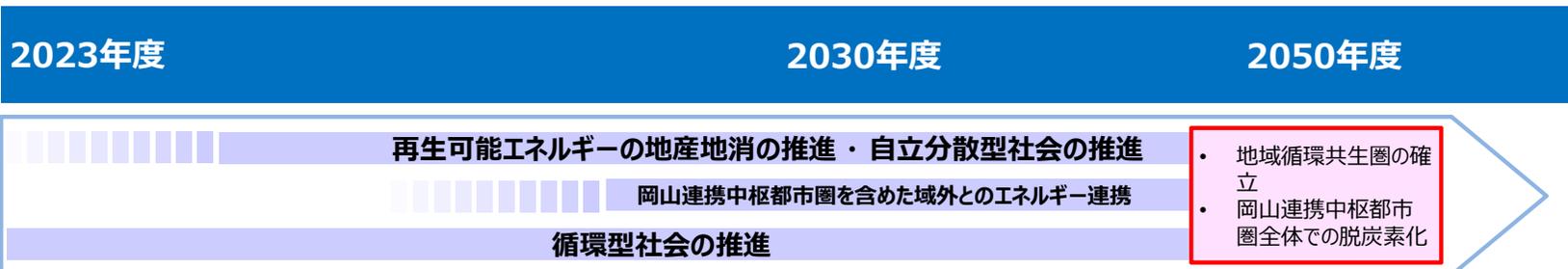
ゼロカーボンドライブ

- ・ 次世代自動車は静音性が向上しており、排気ガスが出ない
- ・ EVは蓄電池として、災害時等に活用することも可能
- ・ ガソリン代の負担軽減が期待できる



(4) 各項目における取組

地域連携の推進



地域連携の推進

主要な取組

項目	概要
再生可能エネルギーの地産地消の推進・自立分散型社会の推進	市域内で作られた電力等のエネルギーを市域内で利用する「エネルギーの地産地消」を推進し、災害時等のリスク分散や、地域の活性化につながる自立分散型社会の構築を目指します。
岡山連携中枢都市圏を含めた域外とのエネルギー連携	岡山連携中枢都市圏で脱炭素に向けた取組を行い、圏域全体でのカーボンニュートラル実現を目指します。また、その他の地域を含め、域外から再エネ電力を確保するなどのエネルギー連携を検討していきます。
循環型社会の推進	エネルギーの地産地消のほか、廃棄物の適正処理や4Rの推進等により、地域の資源を有効活用し、環境と経済の好循環や持続可能な社会の形成を目指します。

取組のメリット

エネルギーの地産地消、分散型社会

- エネルギー代金の地域内循環による経済の活性化
- 雇用の創出
- 非常時のエネルギー供給の確保
- 電力の送電ロス低減、系統負荷の軽減

域外とのエネルギー連携

- 地方の豊富な再エネを都市圏で活用できる
- 地方にエネルギー代金の収入が入る
- ヒト・モノの新たな交流、サービスの創出

循環型社会

- 限りある資源の有効活用
- ごみの減量
- 活用されていない資源の新たな価値の創出
- 環境と経済の好循環が生まれる

主な成果指標

内容	基準年度	2025年度目標値
市民1人1日あたりのごみ排出量	842 g/人日 (2018)	754 g/人日
資源化率	27.39% (2019)	31.10%
ごみ焼却量	208,869 t (2013)	192,116 t

出所：第2次岡山市環境基本計画(改訂版)、岡山市環境保全行動計画

(5) 岡山市地球温暖化対策実行計画との体系表

岡山市地球温暖化対策実行計画				ロードマップの項目との関連						
基本目標	基本的施策	主要施策	主要取組	市民・民間事業者の行動変容の促進	市の率先行動	再生可能エネルギーの導入促進	省エネルギーの推進	スマートムーブの推進	地域連携の推進	
暮らしと産業の低炭素化に取り組もう	産業における低炭素化の推進	エネルギー消費量の「見える化」の促進	エネルギーマネジメントシステムの導入促進 カーボンフットプリントの導入	○			○			
		低炭素型・省エネルギー設備・機器の導入促進	省エネルギー性能の高い設備・機器の導入促進 省エネルギー診断・ESCO 事業の利用促進	○			○			
		太陽光発電等再生可能エネルギーの導入促進	工場や事業場への太陽光発電の導入促進 小水力発電やバイオマスエネルギー等の導入促進 営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）の導入促進	○		○	○			
		国の制度の活用促進	J-クレジット制度などの利用促進	○					○	
		業務活動における低炭素化の推進	太陽光発電等再生可能エネルギーの導入促進	事業所や業務ビルへの太陽光発電の導入促進	○	○	○			
			低炭素型・省エネルギー設備・機器の導入促進	省エネルギー・省 CO2 性能トップランナー機器の導入促進 BEMS（ビルエネルギーマネジメントシステム）の導入	○	○		○		
	市民生活における低炭素化の推進	国の制度の活用促進	J-クレジット制度などの利用促進	○	○				○	
		太陽光発電・太陽熱利用の導入促進	住宅への太陽光発電の導入促進 住宅への太陽熱利用の導入促進	○		○				
		低炭素型・省エネルギー設備・機器の導入促進	省エネルギー・省 CO2 性能トップランナー機器の導入促進	○			○			
		住宅におけるエネルギー消費量の「見える化」の促進	HEMS（ホームエネルギーマネジメントシステム）の導入促進	○			○			
		市民共同発電の推進	市民共同発電所の設置促進	○	○	○				
		エコライフスタイルへの転換推進	環境家計簿の普及推進 ライトダウンキャンペーン等の実施 地産地消・フードマイレージの普及	○	○				○	
低炭素型まちづくりを進めよう	低炭素な建物・まちづくりの推進	エネルギー効率を高める都市整備の推進	地域熱供給システム、コジェネレーションシステム（熱電供給システム）等の導入促進 排熱の融通利用の促進	○	○		○		○	
		環境配慮型建築物等の普及	建築物の CASBEE（建築環境総合性能評価システム）普及促進 ZEH・ZEBの普及推進 ESCO 事業の利用促進 緑のカーテンの導入促進 市有施設への太陽光発電システムの導入	○	○	○	○	○	○	
		焼却施設における温室効果ガス排出量の削減	廃棄物発電の電力を庁舎等の市有施設で使用するなどの検討 各焼却施設における廃棄物発電の継続実施			○			○	
		まちなかLED化の推進	LED 化推進事業	○	○		○			
		スマートエネルギーの導入推進	スマートエネルギーの導入	スマートエネルギーの導入 スマートコミュニティの推進	○	○	○	○	○	○
			スマートエネルギーの導入	スマートエネルギーの導入 スマートコミュニティの推進	○	○	○	○	○	○

岡山市地球温暖化対策実行計画				ロードマップの項目との関連							
基本目標	基本的施策	主要施策	主要取組	市民・民間事業者の行動変容の促進	市の率先行動	再生可能エネルギーの導入促進	省エネルギーの推進	スマートムーブの推進	地域連携の推進		
低炭素型まちづくりを進めよう	低炭素な交通施策の推進	公共交通利用の促進	岡山市総合交通計画の推進	○	○				○		
		自動車利用の抑制・転換の推進	岡山市総合交通計画の推進	○	○				○		
		自転車利用環境の向上	自転車先進都市おかやま実行戦略の推進 コミュニティサイクル「ももちり」の運用	○	○				○		
		環境にやさしいエコドライブの普及	エコドライブの普及推進	○	○				○		
		次世代自動車の普及	電気自動車の普及推進 電気自動車のカーシェアリング普及推進	○	○				○		
		バイオ燃料地域利用事業の推進	廃食用油（使用済み天ぷら油）の回収・リサイクルの推進 バイオ燃料の使用拡大	○	○	○			○		
	水素社会の構築	水素社会の構築	水素社会の構築	家庭用燃料電池（エネファーム）の普及拡大 燃料電池自動車（FCV）の普及促進	○			○		○	
			廃棄物の適正処理の推進	リサイクルの徹底による資源リサイクル率の向上 過剰包装の抑制やマイバグ運動の普及拡大 リサイクル製品利活用の推進	○	○				○	
		循環型社会の構築	廃棄物の適正処理の推進	廃プラスチックにおける分別回収の推進 下水汚泥における有効活用の推進	○	○				○	
			フロン排出抑制法の遵守	事業者による冷媒の適正管理（使用時漏洩管理）の推進 第一種フロン類充填回収業者による充填・回収基準に準じた作業徹底の推進 第一種フロン類再生業者、フロン類破壊業者による再生・破壊基準に準じた作業徹底の推進	○					○	
			市役所の環境保全行動の推進	岡山市環境保全行動計画の実行	市役所の環境保全行動の取組実践 市有施設の低炭素化の推進		○				○
				市民・事業者・行政の協働推進	クールチョイスの推進 自主的な取組への支援 活動団体間の交流と連携の促進 市民参加のまちづくりの推進 協働の取組を通じた情報の把握と整理	○	○				○
環境教育・環境学習及びESDの推進	教育・学習の機会の提供	環境学習講座の推進	○								
	ESD実施能力の向上	岡山ESDプロジェクトの推進	○								
	指定都市市長会における連携	指定都市市長会における連携		○				○			
	岡山連携中枢都市圏における連携	岡山連携中枢都市圏における連携		○				○			
産学官の連携	産学官の連携	産学官の連携	○	○				○			
	国際協力・国際理解活動の支援	国際協力・国際理解活動の支援		○				○			

6. 用語集

用語	解説
4R	4Rとは、一般的な3Rであるリデュース（Reduce：排出抑制）、リユース（Reuse：再使用）、リサイクル（Recycle：再生利用）に、リフューズ（Refuse：発生抑制）を加えた考え方です。リフューズとは、不要なものやごみになるものを受け取らない、拒否することでそもそも廃棄物を発生させないことを意味しています。例えば、マイバッグを持参しレジ袋を断る、過剰な包装を断る、不要なパンフレットや広告物を受け取らないなどがあてはまります。
COOL CHOICE (クールチョイス)	<p>二酸化炭素（CO₂）など、温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など、日々の生活の中で、様々な「賢い選択」をしていこうという取組です。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <ol style="list-style-type: none"> ① スマートムーブ ② クールビズ・ウォームビズ ③ 省エネ家電の導入 ④ 再エネ電気への切り替え ⑤ 節電 ⑥ 節水 ⑦ 宅配サービスをできるだけ一回で受け取る など </div> <div style="flex: 0.5; text-align: center;">  </div> </div>
ESD	ESD（Education for Sustainable Development）は「持続可能な開発のための教育」という意味で、一人一人が社会のあり方や価値観を見直し、持続可能な社会をつくるために、未来に向けて考え、話し合い、学び、行動していく取組です。2005年、岡山市域は国連大学から世界で初めて「ESDに関する地域の拠点（RCE）」に認定され、ESDを推進しています。岡山市域では、岡山市内の学校、公民館、市民団体、企業、行政などがゆるやかにつながり、連携しながらESDを推進しています。
LRT	LRTとは、Light Rail Transitの略称で、低床式車両(LRV)の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する軌道系交通システムのことです。近年、道路交通を補完し、人と環境にやさしい公共交通として再評価されています。
ZEB（ゼブ）	ZEBとは、net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称です。ZEBは省エネと創エネ（太陽光発電等）を組み合わせ、エネルギー消費量を正味ゼロにすることを目指します。創エネがなくても、基準となる建物と比べて50%以上省エネすることで、ZEBのひとつであるZEB Ready（ゼブレディ）とすることも可能です。今後2030年までに、新築の中大規模の非住宅建築物ではZEB相当まで省エネ基準の引き上げが示唆されています。
ZEH（ゼッチ）	ZEHとは、net Zero Energy House（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の略称です。ZEHは外皮（外壁や窓等）断熱性能の大幅な向上及び高効率な設備による大幅な省エネと、再エネの導入によってエネルギー消費量を正味ゼロにすることを目指します。「第6次エネルギー基本計画」（2021年10月閣議決定）では、「2030年度以降新築される住宅について、ZEH基準の水準の省エネルギー性能の確保を目指す」、「2030年において新築戸建住宅の6割に太陽光発電設備が設置されることを目指す」とする政策目標が設定されました。
エシカル	エシカル（Ethical）とは英語で「倫理的な」「道徳上の」という意味を表す言葉です。一般的には「多くの人たちが正しいと思う、人間の良心から発生した社会的な規範」と捉えられ、派生して「人や社会、地球環境、地域に配慮した考え方や行動」を指す言葉として使われています。中でも環境や生物多様性、貧困、人権問題といった世界の課題、そして地域の活性化などに配慮した商品やサービスを「消費」することを、「エシカル消費」といいます。

用語	解説
エネルギーマネジメントシステム	エネルギーマネジメントシステム（EMS）とは、エネルギーの使用状況を可視化し、エネルギーの運用を最適化するためのシステムです。対象によってHEMS（ヘムス：家庭）、BEMS（ベムス：建築物）、FEMS（フェムス：工場）、CEMS（セムス：地域）と呼称されます。
岡山連携中枢都市圏	経済を持続可能なものとし、住民が安心して快適な暮らしを営むことができる都市圏を形成することを目的として、平成28年に岡山市を含む8市5町で「岡山連携中枢都市圏」を形成しました。地域において、相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、コンパクト化とネットワーク化により「経済成長のけん引」、「高次都市機能の集積・強化」及び「生活関連機能サービスの向上」を行うことにより、一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点形成を目指しています。
カーボンフットプリント	カーボンフットプリントとは、商品・サービスのライフサイクルの各過程（原材料の調達、生産、流通・販売、使用、廃棄等）で排出された温室効果ガスをCO ₂ 量に換算して表わしたものです。消費者がCO ₂ 排出量を確認できるとともに、サプライチェーン全体での温室効果ガス排出削減対策の最適化につながることを期待されています。
グリーン電力	グリーン電力とは、太陽光、風力、バイオマス、水力、地熱等の自然を利用した「再生可能エネルギー」で作った電気のことです。グリーン電力には電気そのものの価値のほかに、化石燃料の節減、二酸化炭素の排出削減などの「環境価値」をあわせ持っています。
再エネ100宣言RE Action	再エネ100宣言 RE Actionとは、企業、自治体、教育機関、医療機関等の団体が使用電力を100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示し、再エネ100%利用を促進する新たな枠組みです。岡山市は2021年7月に再エネ100宣言 RE Actionへの参加を表明し、同時にRE Actionの活動のPR等を行うアンバサダーに就任しました。
スマートムーブ	<p>「二酸化炭素」排出の大きな原因の一つとなっている自動車への対策として、通勤・通学などの日常生活において所有する車を中心とする移動手段を見直し、「二酸化炭素」排出量の削減を目指す取り組みです。</p> <p>スマートムーブが推進している取組</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 電車・バス等の公共交通機関の利用 ② 自転車・徒歩での移動の推奨 ③ エコドライブの推奨、エコカーへの乗り換え ④ エコ旅行やエコ出張等の実施 ⑤ カーシェアリング、コミュニティサイクル等の利用促進
ゼロカーボンドライブ	ゼロカーボンドライブは、太陽光や風力などの再生可能エネルギーを使って発電した電力（再エネ電力）と電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド車(PHEV)、燃料電池自動車(FCV)を活用した、走行時のCO ₂ 排出量がゼロのドライブです。
都市型バイオマス	都市型バイオマスとは、都市部における生物由来の有機性資源であり、食品残さ（生ごみ、廃食用油等）、廃材、古紙、し尿、下水汚泥等が含まれます。都市部におけるエネルギー資源としての活用が期待され、エネルギーの地産地消や、自立分散型社会の構築、持続可能な社会の形成に寄与するものとして注目されています。
デマンドコントロール	30分間ごとの平均使用電力（デマンド値）を、目標値よりも低くなるようにコントロールすることです。契約電力と電気の基本料金は、過去12か月で最も大きなデマンド値に基づいて設定されます。デマンド値が一定以上にならないように、電気の使用量を監視・調整することによって、契約電力や基本料金を抑えることができます。また、2022年度冬季の電力需給ひっ迫による節電要請がありました。社会全体がデマンドコントロールを進めていくことで、このような課題の解決につながります。